県立牧野植物園の磨き上げのさらなる加速

環境共生課
H31当初予算額　219,394千円

常設展示室のリニューアル

整備の目的

牧野博士の植物図や植物標本などのお宝を活用し、来園者に植物の魅力を伝え、展示を楽しんでいただけるよう**ＶＲ・４Ｋの映像システム**や、**お宝展示スペース**を整備することにより、県内外からの誘客を図る。

内　容

展示館改修（H31 改修）

○牧野博士が収集、作製した植物図や植物標本等の貴重なコレクションを常設で展示できるスペースを整備
○**ＶＲ・４Ｋ映像シアターを設置**

VR・４Ｋ映像システム（H30～H31 ソフト制作等）

○映像ソフト（コンテンツ）の制作
・ヴァーチャルリアリティの圧倒的な臨場感と没入感で、牧野博士が作製した植物図や植物標本の世界を体験し、植物の神秘に迫る
・驚異的な技で描かれた植物図や四季折々の植物の様子を高精細かつ臨場感あふれる４Ｋ映像で紹介
○スクリーン、プロジェクター等の設備の整備

完成イメージ

新研究棟の整備　（H31：基本設計）

整備の目的

牧野植物園磨き上げ整備基本構想に基づき、資源植物研究センターを建て替え、「知の拠点」として研究機能の充実を図ることで、産業振興及び教育に貢献する。また、レストラン等の利便施設の設置により、観光客の利便性向上と誘客に寄与する。

整備の位置付け（機能と効果）

①南海トラフ地震対策（新研究棟として建替）
②磨き上げ整備基本構想に基づく研究機能の強化（「知の拠点」としての**オープンリサーチセンター**）
③レストラン等の**利便施設の再配置**

オープンリサーチセンター機能　（開かれた研究施設）

○**分類学と薬学の融合**（牧野植物園の強みを活かす）
→　植物分類学、有用植物学の交流を活性化し、成果につなげる
○**外部研究者との交流**（研究者に開放された研究施設：**ジョイントラボ、交流スペース**）
→　企業等との共同研究や研究者との交流を進め、研究の充実と成果につなげる
○**地域にオープン**（県民、子どもたちに開放された研究施設：**キッズラボ**）
→　実験室等の可視化（研究の見える化）、研究内容のパネル展示

第２、第３の
牧野博士を育む

利便施設の再配置（眺望を活かしたレストランの設置等）

○新研究棟の3階に**50席規模のレストラン**を設置（南園を一望できる眺望）
○夜間開園時の営業（ディナーの提供）やショップ併設の相乗効果により誘客を促進

入園者数目標

○夜間開園の拡大、新園地の整備など、これまでの磨き上げに加え、常設展示室のリニューアル、新研究棟の整備により**年間20万人以上**の来園者を目指す。

来園者数　14万人（H29）
→　20万人以上（持続的に確保）

スケジュール

	H30	H31	H32	H33	H34
展示館	映像コンテンツ制作	改修工事 ● 常設展示室リニューアル（H31.8月～）		リニューアルに合わせてＶＲ映像１本の上映開始 H32年度からはＶＲ・４Ｋ映像４本を上映	
新研究棟	敷地計画	H31当初 基本設計	実施設計	建築工事	

動物愛護の推進

食品・衛生課
H31当初予算額　87,445千円

高知県内の収容・殺処分頭数

収容・殺処分頭数は減少　※頭数は犬猫合計

収容頭数　1,331→1,044（H28→H29）　△**21**%

殺処分頭数　933→ 717 （H28→H29）　△**23**%

さらなる削減のための課題

○離乳前の子猫の処分を抑制するため、みだりな繁殖を防ぐ一層の対策が必要
・メス猫不妊手術推進事業の申請数に対する助成頭数が不足
・狭い地域で集中的に不妊手術を行う取組が不十分
○保護動物が飼い主の元へ戻れるよう所有者明示の普及啓発が必要
○県の対策とボランティアや市町村等多様な主体とのさらなる連携が必要

今後も継続する取組

川上対策

収容される犬や猫を減らす取組

■動物愛護教室や講演会等による普及啓発
■飼い犬・飼い猫の引取の有料化（H24.10～）
■メス猫不妊手術推進事業の開始（H26.10～）
H30.11月末現在3,500頭の不妊手術を支援
■市町村窓口での引取りの廃止（H28～）
■飼い方講習会の休日開催（H28～）
■新聞等による適正飼養等広報強化（H29～）

川中対策

小動物管理センターにおける動物福祉の取組

■譲渡用猫舎の設置（H26）
■収容犬舎の増設（H28）
可能な限り長く飼うことで、譲渡の機会を確保
■犬舎へのエアコン設置（H30）
■獣医師による診察の実施（H30～）
■委託業務への積極的な関与

川下対策

収容された犬や猫をできるだけ多く譲渡する取組

■譲渡ボランティア制度開始、対象動物の幅を拡大（H28～）
■ポスターやチラシの配布等による譲渡動物の広報
■譲渡動物の不妊去勢手術の徹底（手術費等支援）
■譲渡見学会の休日開催（H28～）
■ミルクボランティア制度試行（H30～）

平成31年度に追加する取組

★多様な主体との連携・協働等による収容動物の削減

○メス猫不妊手術の一層の推進

拡 メス猫不妊手術の助成頭数を100頭増加

新 市町村とボランティア、地域住民等が協働し、特定エリアの飼い主のいない猫を集中的に不妊手術するため、特別枠（200頭）を設定

H31 助成頭数	**1,500頭**	**300頭UP**
○飼い猫	500頭	【助成額 6千円/頭】
○飼い主のいない猫	800頭	【助成額 1万円/頭】
○集中的不妊手術枠	200頭	【助成額 1万円/頭】 NEW

特定エリアを対象とした集中的不妊手術
① 市町村とボランティア、地域住民等が協働し不妊手術実施計画（エリア・事業期間の設定、猫の状況把握、術後の管理方法等)を作成
② エリア内の猫を保護し、動物病院にて不妊手術を実施(県の助成)
③ 手術後、猫を元の場所へ返す

拡 **ペットの所有者明示（マイクロチップ装着）の推進**
迷子や南海トラフ地震等災害時などペットと離ればなれになったときのため、保護された際に飼い主の元へ戻れるよう、小動物管理センターからの譲渡動物に対し、マイクロチップ装着費用を助成

★返還・譲渡の推進

○飼い方講習会及び譲渡見学会の休日開催の増加

こうち動物愛護センター（仮称）の設置へ
動物愛護を総合的に推進する拠点

川上から川下までの動物愛護の取組を強化

自転車ヘルメット着用の推進

私学・大学支援課、学校安全対策課
H31当初予算額　14,281千円

対策のポイント

○自転車の安全利用に関する指導・啓発活動をさらに充実をさせることで、自転車の安全利用に関する意識の向上を図る。
○児童等の登下校中の安全確保に向けた取組の拡充を図る。
○ヘルメット購入費用の一部を補助・助成し、保護者の経済的負担を軽減することで、中学生・高校生のヘルメット着用の推進を図る。

＜事業の背景＞
「高知県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」（平成31年４月施行）において、保護者に対し、18歳までの児童等へのヘルメット着用について努力義務を規定

1　現状・課題

○登下校中における自転車運転中の事故が多い。
○全国的に、自転車運転中の事故の中で、死亡にいたる頭部損傷の事故においては、ヘルメットの未着用者が多い。
○ヘルメットの着用が義務化（校則化）されていない学校においては、ほとんどの生徒が着用していない。

2　実施対象・方法

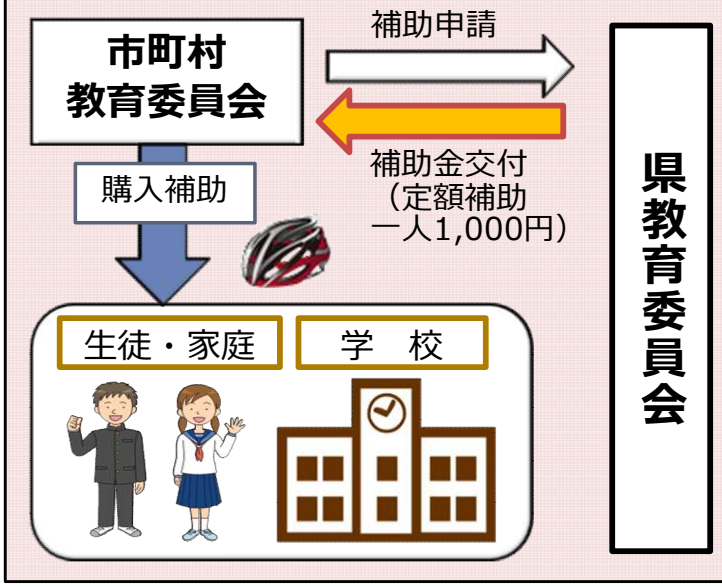
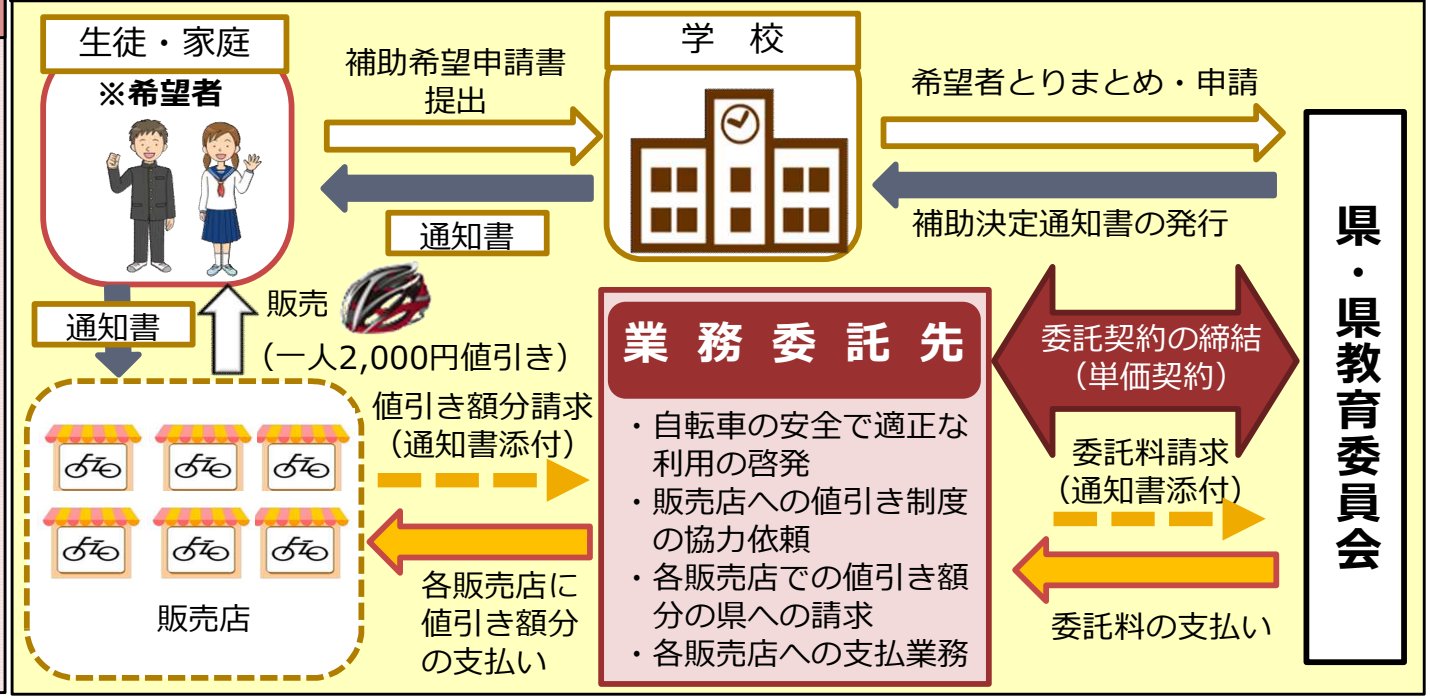
対象　県内全ての小中高校生で自転車通学をしている児童生徒（保護者）

方法
①市町村立：ヘルメット購入に係る補助制度がある市町村への上乗せ補助
②国立・県立・私立：販売店での購入費補助
ヘルメット購入時に販売店で2,000円値引き。
委託先から販売店に値引き額分を支払い。

3　実施内容 新

①市町村（学校組合）立小中学校・高等学校・特別支援学校　（定額補助　一人1,000円）

※補助制度のない市町村は制度を創設



②国立・県立・私立の中・高等学校・特別支援学校（定額補助　一人2,000円）